山形縣羽前國東田川郡
廣野新田村
梅木[illegible]

倭漢朗詠集卷下

雜

風　雲　晴
曉　松　竹
草　鶴　猿
管絃 付 音妓　文詞 付 音文　酒

山 付山水
水 付漁父
禁中
古京
古宮 付故宅
仙家 付道士 隱倫
山家
田家
隣家
山寺
佛事
僧
閑居
眺皇
餞別
行掛
庚申
帝王 付法皇

親王 付王孫
丞相 付執政
將軍
判史
諏史
王昭君
妓女
遊女
老人
交友
懷舊
述懷
慶賀
祝
無常
白

雜

風

春風暗芳庭樹花每偸翠君莫
入松易亂欲惱明君々就流水海
應送引子之葉
蓬生子中吹不覺徐君掾上庭狂無

班姫裁扇應誇尚列子從軍不離是
あさうせのふくりつゆてもとくあるか
おきのなかはしはとはしてまし
かのくとありけれ此月の月かけよ
りうちゆきなりしのうせ

雲

竹班湘浦雲瀨鼓聽之蹤風去
秦基月起映篇之地

山遠雲埋行客迎松寒風放掃人夏
五月望雲心聚有時見月和正閑
潼皓遮秦之朝皇礙孤峯之月
陶朱辭越之蓋服混天湖之煙
暫備崎嶇非裁石兎倫淺嶺生松
漢帝龍祝生處之淮王難殫天留之

よきよりのミ見えくやしみるまでうつまや
たりまの山ぬらひのしらせ

晴

煙消門外青山近落重巒綠絹
紫蓋巖崩陣雲收七百里外
瀑布泉波冷月洗軍尺餘
雲清碧落天廣解風動清游北窗

愛鶴出身半枝夢落孤帆連水雲消
歸鶴落日高見飲渭於暮寂
かれ見えきみとりのそこをめとけく侍
あかりなきかりあそふいとゆふ

曉

佳人金鑑於晨粧魏宮鐘動世子
狂行お殘月函谷鷄鳴

幾行南去之鴈一片西傾之月
赴征路獨行之子指店程高
法孤城百戦之帥胡笳未歇
散粧重屋之中青蛾正蹙花
家瓊筵之上紅燭空餘
又聲宮漏初明好一點寒燒立城河

あらきのかくましくはしらゆみ
をきてまもりし夫わ是を御しや

杠

但有數杠當御下更無一事為心中
青山有雪猶杠性若落無雲絲鶴心
手更淺雪在吟熊廉之婆百出乱
難破裏出之射

九夏二伏之暑月竹含鶴年之風
玄冬素雪之寒朝松繫君子之德
十八学君侍務一子年逾萬中源
含雨顔松天更霧焼妹林楽火金竜
さきとれるまつの見とりもとれる
いさひとしかの気まさり計学
まれみそをひ乃しをすりぬすとよしの
きしのひめまつくよくぬる事

あまくさるあらんかのあひとも、我
わりへハひさしをみよしのまり

竹

焼葉鄙誇侵蓬風枝蘭飄玉林色
阮籍嘯埼人出月子獻看處鳥稀
晉騎兵参軍王子猷載樽山表
太子賓客白楽天雲篇吾友

遊筆来抽鳴風雲聲稀絶路即殺文
よにあれハなとのたしあきくれるをはら
うきふしことにうきのをのすく

草

沙頭雨深斑と草水面風紅怒と波
西飛龍今何去春風百草頭
瓢箪屢空草滋祝測之巻藜藿

深深西湿原寒之樞
草迷雪晴初布護馬色落暖漸綿蕊
蒹葭有馬蹄独落傳野無人路漸滋
かのとうりなかうとはしたれ来りを
ありつゝもこさしかきまさまさ海くさにたん
おほあら夜のまりのしたくさおいぬまは
こまもすさめしかるかへりかし
やかはとしくさはりしまかをかとか鄙を
さはれはりふまうをさらの所事

鶴

嫌少人而踏高位鶴有乘軒惡
利足霞邦家雀能穿屋
同李陵之入胡但見異類似屋
原之去楚在人皆醉
夢來枕上年鶴新落雪中無聲

清唳教夢杯鶴寒光一點竹留燈
雙舞庭前花落處教夢池上月明時
鶴歸意里丁令威之詞誰能迎
新儀陶安之駕在眼
飢龍性躁忍之乳老鶴心閑淫之眠
叫漫遥驚孤枕夏和聞漫今絃彈

わかのうらしほみちくまはかくれなき
あしへをしてとりなきこゑ
おほさしおもしろきとろのさしかくる
おもふ古くろ岩ありをなるゝ邦
あまつ勢なけ升のうしにゐるとろの
をとかくもゐりかつらしきへき

猿

瑤臺霜滿一聲之言鶴喉天巴
渡煤深立夜之哀猿叫拜

江垣渡初成字猿遊垂陽始斷腸
三聲猿後喜鄉淚一葉舟中載病見
胡鴈一聲秋破高客之夢夕巴猿
三叫曉霑行人之裳
人煙一穗煤村俗猿叫三聲晴淚
曉渡羅深猿一叫蓄林花落馬兒鳴

管絃鶯岡山高木梯老斜陽猿色
わひしらにましらなくこそあしひきの
山ぶかひあるかふりやハあらぬ

管絃　付舞妓

一聲鳳管秋鶯奏山顔之雲
數拍霓裳曉送緱山之月
第一第二絃家秋風松聲疎

第三第四絃冷々和鶴性子蘇中鳴
第五絃夕尤掩抑潺水凍咽淚不得
随分管絃堂自足不開篇詠枝人知
執令牝下裁右婦袖舞同心一斤花
羅綺之為重衣姫無情於桃婦
笈絃之在長曲無心圖お伶人

落梅曲舊曆吹雪打柳於新宮稲穂
相如背挑文君得堂似簾中子細聽
ことの稱りみ〇のさつりをかくしこ
いつきのとよりもしらしめけせ

文詞　付き文

流詞怖悦若游魚衛詞和源関庭
浮藻連礪若輪馬嬰繳深蕩電渡

遠文三千軸軸々金玉於就門原
上去埋骨不埋名
言猶巧偷鶯鶯吉文事分鳴風毛
錦帳曉開雲母殿白珠秋写水精璧
昨日山中之木才敢諸己今日庭
前々花詞懸於人

王沢家之孫橋徐麿事之回草
江淹一時之友集之花別駕之遺文
陳孔璋詞曹命病馬相如賦之淺雲
贈爵新恩銘刻石鞍麻侍集世知之
いつとりのかきよるりをはいかけらり
うとのことのもうきしうしゅし

酒

新豊滴之清洛お鶯鶯之市
ちかれ春夢ハ典周お風風夢之裏
曇建威将軍劉伯倫嗜酒低
酒徳於傳お世度古今之意
白ふとと嗜酒低酒徳鍵之
酒風秋秋樹黒酒も年人

山

岱宮迴臨蒼海上泉來高遠落日中
勝地本來無定主大都山屋電山人
夜鶴眠驚松月苔曉龍飛落煙雲
紈扉拖來青岱宮落雖惟土木聖廟
庭頼曉興林頂老蘇源書叩蒼窓

かのうしてやまはみうさをかうけ字
あさひゆふひのさはりそあ字計
くをのゐるこしめしらやまはひりくり
おかくれさしゐゆきつもりけ
ゐまさをはまつのそしろきよしめやま
いくまつりまろゆきりあるなを

山水

泰山不讓土壤故能成其高河海
不厭細流故能成其深

巴猿一叫停舟於明月嘆之龜
胡馬血啼失路黄砂磧之寒
礙日暮山青漫天煉水白茫
漁舟火影寒焼浪驛路鈴色和山
山似屏風江似簟叩舷來津月沖
草木枝疎春風掃山祇變畫

接臧妹水学河伯之民
韓康獨往之棲花藥叢花
蠶屏毎之泊煙波堆新
山復山沖之削成青巖之形水復
各雅象深者碧潭之合
山郎遠樹雲開処海岸如村日暮時

山成回背斜陽裏水似回流迷鷺
かしまひのしらのきしやまつるん
そうこの川若の此あとまる

水 付漁父

鳥珠の牧馬野の平沙所々り
海と仙帆数を去て
海鳥花の蒼々
洲香杜の樹花の暗鶯鶯鋪の遊

帆井を草の中を花漁夫梅の裏を行
水鶯海家里春風妻船掉入の湖長
蘇鳥投鶴春港酒船舟浮花泥濘
園居於淫人家居夏之也
秋の月の水仲の夏花葉陰の秋の風也
奈鶴者の得魚晴田に浮遊の事

梅掠ヲ唯中ク爲ヲ盛ニ掠君ヲ可ニ
沙臥ニ刻ム中ヲ鷄掠ヲ水庵ニ撞ス古ヲ爲ル岡キ
日脇ニ波ニ來ヲ孤ヲ鳥ヲ鳴ヌ風ニ松ニ草ニ茶ヲ執ム
としをへくたるおかりしかんとなれるこゝ
ちりかくるとやもうといふ事
見るかうこの作て見ん事ハ君ハ世ニ
ふてこれを見ん爲なり川のこゝ

林中

風ニ波ノ面ニ新ニ秋ノ月ニ就ニ鶴ニ於ニ松ニ爲ニ蓋ニ山
煙ニ浮ニ高ニ遠ニ雲ニ於ニ他ニ浮ニ鶴ニ於ニ園ニ
三ニ子ニ仙人ニ逢ハ碁ニ碁ニ合ニ元ニ夜ニ角ニ夜ニ猿ニ
鶴人ニ鳴キ唱フ琴ニ鶴ニ鳴ス明ニ王ニ眠ヲ兎ニ鐘ニ
庭ニ鳴ル雷ニ激キ晴ス晴ニ玉ニ碁ニ
鶴ニ假ニ日ニ高ニ冠ニ新ニ掠ケタリ和ニ川ニ沙ニ原ニ鹿ニ花ハシ

あさきまて ぬしのあくひよあけね
わきを[illegible]のうちよそさけ
ひとりすみけるやまさと秋のつき
[illegible]のこそわすれひやらぬ[illegible]

古京

緑草如今麋鹿苑　紅花定昔管絃家

いそのかみふるきみやこをきてみれは
むかしかさししはなさきにけり

[illegible]　付[illegible]

[illegible]林古[illegible]春[illegible]
[illegible]
[illegible]
強呉滅兮有荊棘　姑蘇臺之露瀼瀼
暴秦衰兮無虎狼　咸陽宮之煙片片
老鶴[illegible]

孤雲暮霧臨孤粉蓬萊楊風度
蓬雖見霧林葉清源洞中風桂也
向晩簾以生白霧經宵床底見天
きゝ所にてかゝりたるにしたがかまれ
うらさ飛しきを見てわたるかな
きゝ見ずてあまたるゆとのまよれ
月のすゝしを袖はぬきかれ
いかしへはたるをやひとのれしけ
いまはたゞよそひしこゝしし

仙家　付道士張倫

壺中天地乾坤外夏暮月名日暮昏
藥爐有火丹夜伏雲雁無水自春
山底採微雲不厭洞中栽樹鶴先知
三壺雲浮七万里之程多浪立城
霧詩十二樓之構採天

奇天吠花聲流於紅桃之浦
鶯風振葉香分出樓之妓
謬入仙家雖為半日之客恐
歸意里纔逢七世之孫
丹竈乃成仙家鶴山中京兎月華但
石床留洞嵐風松東抱林鳥鳴

桃李宮春幾蕭煙霧無聲雜鶴
王高一去雲長門東晚笙夢海深
高山岸落林鶯白軟水清揚之前清
君海之夢宮海岡松山無雲晚雲孤
直夏和源雜洞月鶴張蕭樹風
ぬまてくわしとやまりたのきくの家ぬまに
いてくかりれハ手世と面ぬらん拜

下

山家

芸窓寄禪叙桃花聴鶴聲之音按菴

蘭省草村樹林下庵山雨秋夕庵中

漁父晩舩浦向牧童牛笛吹

王尚書之蓮府康則顧問唯

玉紅顔之富貴中散之竹林並

幽栖雅非論之士

南望則有海浪之長紛人征鳥飛

譯者發篙下東顧則魚之林鐘

之炊煙白鷺遺迹之夕樵之煎

山路日暮涌猿群之樵歌牧笛之聲

洞口鳥雲塵飛花竹林松聲

花曽旁家寺之経洞裏梅家鶴御
晴ヒ雪山陰庸之面初白水入門流
觴雲春雲生桃上衛羅曉月黄昏
やまさとはものゝひしかることそあき
よのうきよりはすゑよりけり字
山さとはあゆそゝひしさまさりけり
人めをくさをかれぬとおりへ字

田家

碧萩線孤神楠雲雞猿鶯鷹
鳥家一大連人吠枝聲羊牛猿保
野杉節時業業務山暁甲月楠鳳
蘭雲村風吟笛処笠源隣月携花
ちるゝ田を人りまうせてわきはさ
けかりあくろとはをるとろる
とれすきはさるへもいくおいぬへし
あめまをたこハさいくさりくらを

きぬふしそさゝんとりしらいろのかに
いつくもそうしあるせりて

隣家

明月好同三径夜 緑楊宜作両家春

可独終身数相見 子孫長作隔牆人

[illegible]

[illegible]

春[illegible]

こえうやとわか宿とふかきつてそ
まろうぬまつこむ人りうな

山寺

千株松下両峰寺 一葉舟中万里身

更無俗物当人眼 但有泉声洗我心

[illegible]

閑水之橋以為名岸之金
策馬来時只思風煙之丁飯
逢僧侯又漸覚世俗之皆空
人心鳥路寒雲出地乞誘の趣水登
三千世界眼前如干二周縁心裏空
泉飛面洗君閑夏葉落風飛過桐

山てらはいりあひ乃ク稱のよ忍ことり
そふもくれぬとさくそわひしき
ちのりとをきみかしきれいをのりら
ちなみるひとりまりぬへきかな

佛事

月隠重山号聲扉吟風息
大君号動樹夜々
願以今生世俗文字業狂言綺

猿之猴龍為當來世之讃仏家
用鶴林之輪之縁
百千万劫量撰種十二年功徳林
此方仏之中以西方為皇九
品之蓮台之見隆下品庭之
雖十悪五逆之構甚然風救

雲霧雖一念悪心邪念之巨
海之納消露
昔切利天之安居九十日刻赤栴檀
守摩騰今援提河之城三
千年豈非広宣流布乎
渡沈欲消難行馬頭觀音打

易破関芥鶏冠長志
念極楽之尊一和山月正圓先ん旬
如く會三朝洞花音落
和琴琴ハ思官絃琴袖衣領代綺雖人
眼華豊養清涼水面月色留十五天
以佛神通重約数經勤言鶴家

叩凍眉来寒谷月払霜拾数蓄宝
己絵来翠中手役初得雖産一乗文
いはしかと云りとおもひしわるなとは
のつまれてめまうなふはつゝはゆる
ちくらくはなるけきれとしきしかせ
つとめるすいてるところなりなり
このよにてほこいのこのとうをつれハ
きゝかひくへきまとそなりめる
ゆれくあ雖こゝやくこれいの行こち
わるうそまかに宜加わしをたまへ

僧

蒼茫霧雨之霽初來汀鷺立
無煙嵐之節東夕晩鳥僧歸
野寺訪僧過帯月尋林携客破曉
裳有母儀堂以莫留於中天之月室
有卿遊莫以僧息於五老之雲

明鏡在拜時曉照白雲空下來
親宮淨伯公無月是老寺僧首剃
鶴閑遊扇子年雪僧老眉甚字剃

そらくちは〇ハ来て鏡とくしもむらくまれ
まかくろかるんとまてにやありけせ
よの中にしれくるさ乃なかり事は
おもひ乃いへをいかくいくまし
ミわりはのきよきなかりまくしまくし
まかるをちらにはしてやあり作拜

閑居

不獨記東都履道里有閑居
泰適之叟亦合和皇唐大和家
事理世安樂之音
宮車一去樓其動十二長空隙
駟雖上綺羅之三千暗老

幽思窮深巻無人處愁物
欲叮閑忘有月之時
鶴籠開處見君子畫屏閑處故人
今榮耀因緣淺林巒風味深
官途自好心長別世事嫌今日心
蕙帯羅衣抽著於小山之北蘭

撓桂檝鼓舩お東海之東
都府樓縱看見色親青白雖遠色
晦迷東拖苦徑月遊臨林外竹窓風
陶門絶長鈎無慰寢有長林鶴
ひやとはみらもなきまくあまりなり
つれなきうとをしまふ
眺望

風飛白浪花千丁鴈跡書天字一行
出紫閣東望山岳半拜雲根晴
濟樓嶺西顧家鄉黑沒燈樹涼
見天台山之高峯數四十六尺波白星
長安城之遠樹百千万萬青青
江海隔浦人煙遠湖水生乞鳥跡

下行斜雁を論滅二月餘電鄉外飛
老眼易逢殘面好春情難聚夕陽
見ひてをはやるきさくとこさまをそ
こやこれをとろ此あしき或なり計り

餞別

与君後會和何處為我今朝夜一盃
前金程遠馳思於雁山之暮雲

好會期遠雨沾獨於鴻臚之晦海
背聚丹鳥競寸陰於十六年之昌
今促畫能分分多三百畫之好
楊波路滑我之道人今年李
門波高人之道家何日
万里東來何年日一生為百是盡穆

九杉燒煙紛脫一葉丹花ニ鶯秋
歌浮生朝暮雲照君風歌
おもひやかとろとりはさいしを
かなへとろ来しを○のしを
としてのほりのまかれとあり也とも
人をとろ人をしる計る
いのちとりとろまかなふものなしは
なりかなれのかなしかなへき

紛猿

孤飯君時風常雲帆飛水雲
紛ニ主切ニ明月陸ニ曉ニ空畫
明ニ復明ニ吉風浦ニ言ニ松源ニ
曉入吉松ニ洞ニ藪泉咽ニ巖猿
吟夜宿橋浦ニ波ニ吉風ニ
皓月冷

渡邊船風乞出波頭謡皆晴着
洲蘆花毎絶渡岸柳秋風雲雲語
蒼波路雲雲落夢山深鳥一夢
かゝくとあしのうらはあさきなとり
しまかくれりあねとしそれ
わたのたしやそしまかけくこゝ出ぬと
人はつゐまあさはつりあ○
毎よりあらいくそやこへつけや雨年
そつしらはのせきハとゝぬと

庚申

年長毎夢推申子初鳥庚申
己酉年終日少庚申夜半晩光達
れまれかのえさりくなきつりあ○ハ
あまやちきろうとやさはろ

帝王

漢高三尺劔堂剣諸侯張良一

生之書立堂所傳
頂花會鴻門寄情於産之家
漢祖之海帝郡傳恩於四方之風
四海安危照掌間百王理亂爲中
幸逢堯舜無爲化行稽皇之人
聖皇自是世生殿不回遊葉主如影

仁流秋津洲之外惠茂筑波山之陰
測度作瀬之聲寂閑砂古
爲叢之頑洋之海耳
梁元首遊春王之月漸落周
穆新云西母之雲欲歸
布政之庭風流未必歌者眞圓色

位者ハ能也好文ヲ無德作未成者ニ
黄炎ニ兼ヒ者我君也
榮啓ニ頼ニ樂ヲ未ニ者ニ無ニ門ニ
皇甫禮ニ述百王ヲ狂暗法王ニ道ニ
和睿隙文鳳見紅旗風雲畫於揚
刑報補持螢雲ニ練鼓音深馬鳴カ

なふたつりさるやこのたかふゆこ
いさはたるへとにしやこの毛
ちりぬまてしまたくるはされぬめり
ふとせのうちは若をとのまを

親王 付王弦

庫車狀輦ノ貴公ノ雪秋細馬ノ高歌ノ臣
東平奈ニ雅量寧ニ非漢皇廢光無
雙之弟ニ式ニ桂陽樂ニ文諱ニ知ニ

齊帝窮愛弟八令子也
江都之好動擾也七尺厚風其徒高
淮南之求神仙也一旦乘雲而何登
開巷已知為子道煉風皆望斯湖雲
我王孝行先何為楷紳秋風一斤煌
此花非是人間種瓊樹枝頭第二花

此花非是人間種春蓉平其玉斤萬
いかれかやとりはのとりはのこしはよう
ヨクイはきこのみなハわきれ免

蓋相 付執政

季文子妾不敢帛魯人以為美疾
公孫弘身服布被乃躓穢之名
百里實乞食於道路穆公委以政

寡戚子飼牛於車下極己住以圖
孫弘閭閻無聞乃傳說毋忙得人
西京席以乃是陳丞相舊宅曹
山芝澗寧非表司境之幽栖
周旦去文王之子武王之弟自
知其貴忠仁之言皇帝之祖

皇后之父世推其仁
傳氏教之嵐雖風雲於殷高坊
教陵瀨之水猶涇渭於漢秀之初
春遇夏蘭表司境之家雷庭遠
且南嘗小鄭太尉之漢風被人知
やまさくらあるとまつるれ
けるかちるくもりせるかぬまのふ

將軍

三尺劔光不張弓勢月出思
雷中放馬朝弱迄外門鶴村色
千里雄來征馬疲千年雖敗人物
隴山雲臨雪將軍之在家頻有
浪不葉征虜之未仕

獵列虎牙雖拉武勇於漢室將
學抽麟角遂味文章于篇
雄劔在腰援則狀霜三尺雌黃
自口吟心寒玉一聲
牠驚劔新便逃死馬思衣為吾嘆人
たまくしまつてとをあらぬ者の身を
あけなくやいこせとおもひし

判史

古如筆新官府下上者書之称花方
精明合浦珠和以別郡民音初如
陸二百里量漁譚鳥舌ふ花醉
此一西包雲深如陸豈一侍國
たりきやうのわりくみまはなりとろ
こゝのかまくハふきりひよかり

詠史

燈暗新川廣氏源和源四郎方也
廣爲紫雲林紫雲落牡羊鉤乳紫花
作日蓮花秦虎皇高手初倫漫詩記
かそいろはいりなあひれとおりつゝ森
こゝ勢よまりぬあしくもして

王昭君

枯苦辛勤頼頼女也却似番鬼中
身化為胡枝骨象無定作漢言行
聖威君能弥獨精法約法重聖心
為風吹行於心法儀各流行於
胡角一夜霜行夏漢文方寒月於腸
昭君能勝金終宮之地終身幸
敷行暗液猶外一點枯肩落月邊
あしひきのやまかくれなりあしこきに
きくくりかきねとやすもらん

妓女

寒魚似男濃女仁々外姪軍綱
めいえ崔季珪く小妹
外人識置祖唯有二雞衣波古書

あまつりを雲に隠かよ和ら明と絶と
とゝ光乃すゝこゝしとゝめ也

遊女

秋水明遊女佩宴雲風望夫山
翠帳和園万事之礼法莫舟
中浪上一生之歌舞同
聲琴復調浮雁橋高雅

しらなミ乃よりなきこゝは世をもてあ
わまのこなまは屋をさこめは

老人

萬乃東海茶葉今化湖澄保荷
老眠日光不常雨雨力光春宿達
再之懶幽悠悠日之寒世民見漸楠
和葉黄落一枝之春秋花結復

陽春曲調高雖和淡水交情光始和
萬年願我長青眼今日逢君白頭
蘭會鷲之為吾廟託締美代交
張僕射之重新推為忘年之友
裴文籍故園君久管礼部孫見我新
きことわきいかれなことをちゆりをせ
むりしのせこそしらまりけれ

たまをうしなふ人をせたりこの
よつもせりしけともなくは

懷舊

黄壤誰和我白頭獨憶君唯我
年渡一流故人文
長和君先去我年我先付秋風
滿秋渡泉下故人多

住事此三花朝賞秀遊寒落雪
藉州務故詩頭晴王平橋傾府無斜
金谷破花之地花毎春白雪之海
南樓翫月之人月与秋期自身伊去
王子晉之昇仙後人立祠お維
歳之月一年太傅之早世行客

墜涙於峴山之雲
但能良木甚摧歎遠来乞耳棠勿覚縁
いみし風の聲ゆへ此ものゆゑあれと
すとのうちろとしなんそなむ
むしとはかれしとなりぬ
あゆしをめまをうつなきたれ
よのゆしまあらましかはとおもふひと
なきかおゆくをなりふかるなる

述懷

專諸荊卿之感激信生豫子之投
身心爲恩使命依義輕
范蠡收黃勾踐葉扁舟於五湖各
犯謝罪文公忘逐迎於河上
貌其積孫不窺玉關者不知諸葛
所蟠習其弊邑不視上邦者

未知英雄之所匿
人間獨福愚難乃世之風波老不禁
車前彊病驚強架上鶴鬧鳴雀高
事之無成身也老醉卿不言何悔
范蠡收黃捧扁舟而逃不謝安諱
功伏孤雲而養志

昇殿是象外之遷也俗骨之所以
跡蓬萊之雲尚書之天下之望也
庸才不可以攀其圖之月
鈴亞祝細過三代而程沈恨同伯
鸞歌立噫而將去
言下暗生消骨火笑中倫說利刀

載鬼一車何足畏拔亞之浮來為先
禁三間碑終何益周伯夷飢未必賢
なふをして身のいたつらにおいぬらせ
としのおもりんともやさしを
よのみはとてもかくてもおなしこと
こやもまこやをたくしなけれハ
かくなり面かくこゆるよのみしり
こやましくをすめる月の邦

芳文質

釼佩晴趨愛風顧猶沒者宿一漁船
淺塘去國三千里一道風光任之看
想得江南諸父老同君報捷子孫多
吏部侍郎職侍中著緋初出紫微文
銀魚臘底諱春浪綾鶴衣夏暮晴風
花月一窓手書眠雲泥万里恨今前

有躬堂死相知久君是山南初行事
うわしさはむしはうくまつてみけるを
こよひは為まをあまるをめるかれ

祝

嘉辰今月歡喜務万歳子林栗英
古生厚裏長牀留不老門前日月遅
わるさしハ子世りやちよにさしたりしあ
いちはとまりくこけのむしをまん

よろつよにきみのやまとをよはふたる
あめのしたこそよしかりけれ

慶

為君家宅安置所家蔭寿宴書

内裏年中宮節會賜宴於

更園和歌寄圓字寄壽林

圖屏書而賛

別業有佐遊和歌寄猿猴

春風桃李花開日秋露梧桐葉落時

又春夏花田情緒雑桃李絶眠

蘭鶯鶴雑樹寒温於雑為東景

旅之寄暁而夜晴月

少時第花草紅葉落林一枝

寒園獨卧無聊之時蓄於樽蹄
負安陵宮唯存之窮妃堂獨坐
わりこひハゆく来もしらしたもなし
あふとかなりしたもふたりそ
この夜つこぬよあまたりなりぬまは
まくしとおもふそさつよまされる
いまうんといひしはりよなかつ夜乃
ありけりけの月をまちいくつる

無聊

朝月岸雖相望論江頭繁華
蝸牛角上蠅伊尾石火光中寄此身
年々家々家相似歳々事々人不同
生者必滅梅檀之煙
樂者必來天人相逢之日
夠者必誇世語蓄為白骨樽郊原

隆親妹月波中新来道長花賀裏名
よのゆしとなるにこそくむあさから計
こきゆくあれ乃あとのしらなを
よのゆしハ極めかうつ元うつとを
ゆめとも見えをあるくなけれは
あるしむをふゆうやとれる月かけ結
あかなきか乃世りとそありなれ
を忘乃つゆりとめしつくやよのゆし乃
とくれされこつこめしなるを

白

奉皇考歌堂丹ゝ古日属頭
漢帝倘嗟蘇武ゝ細河鶴蝶
銀河澄明素秋見林苑日落鳴
毛衣寵波寒浪庭主弘史立晩起
蓮河月通清潔蓮蕊麗膚雪
霜鶴河鷗生可雲唯嫌玄鶴斷嘯

しらくしらあらたる和乃月ゆきかれまけくむめのとなれる

又十一終

和漢郎詠集下終

寛文七　丁未　歳初夏吉辰

山形縣東田川郡廣野村大字廣野新田字新堰内百拾五番地

梅木德治

山形縣東田川郡

廣野村新田村

梅木金藏主